



第125号

発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 治山明  
 編集人 会誌・会報編集委員 勝山一男  
 印刷所 須坂新聞社

# 本年度の発足にあたって

上高井教育会長 森山明治



近ごろ、本県教育を憂慮しての発言をよく聞きます。藤本県教育委員長の県会で提示された「本県教育の五つの課題」という厳しい提言は記憶に新しいところだと思えます。その他にもマスコミを通じて、また巷間、そのような発言に穏やかならざる気持ちになります。

その拠ってきたところは何か、について、いろいろと述べられておりますが、それらの中で、我々自身の気持ちの在り方にかかわったものについて考えてみたいと思います。上田薫先生が、研究所年報に寄稿された「信州教育と四十年」に、本県教育の現状について、「昨今は、いささかさびしい時期にあたる。」と述べられ、「美しい高い山にかこまれながら、人びとがひたすら肩ひじ張りあうような索漠たる世界は、わたくしの信州ではない。動きのとれない慣行や、面子にこだわる驕慢さを徹底的にゆさぶり、押し流す凜然たる気迫こそが、信州を広く遠く、世界にひろくのだと思う。」と書かれています。

信教百周年記念式典のシンポジウムでの飯島宗一先生は、「どうも、自分たちは、いい意味でも、悪い意味でも、まじめすぎる。そのために価値観の違う生き方だとか、自分の考えと違う者たちには、あまり寛容ではない。そういう意味で独善的な狭さというものがあつたのではないか。」と述べておられました。

また、本郡研究委員会の指導をお願いしている三枝先生も、雑誌の中で、「本県の先生方の中には、自分たちの研究の方が……という意識が先

に立って、他の研究を受容してみるというところに消極的なところがありますね。」と言われました。

いづれにしても信州人の一面として、我々も感じていることではあります。よく言えば、信念に基づいた一途なまじめさではあるが、それだけではない。ここに柔らかさを添えてほしいという提言と受けとっては単純にすぎるだらうか。いづれにしても、聞き流してはならないことではないかと思うのです。

愛知県のS小学校は、「個性を確立する授業」を核として、個性的で素晴らしい実践をしている学校です。この学校は、同じように独自の実践で成果をあげている十校に近い学校と研究交流をされています。独自の実践でそれぞれに注目されている、それらの学校は、独善を嫌い、柔軟な姿勢をとって本質を求めていると見ました。

我々の研究活動も着実な歩

みをしていきます。だが、ここで他へ目を向けてみることも必要ではないかと思えます。自分たちの研究実績を大事にしながらも、研究交流を通して独善はないか、方向はこれでよいか、など研究の在り方を見返し、更に質の高いものを求めていくことが、上高井の独自の実践につながっていくのではないかと思うのです。

県的な研究会や学校独自の自主的な授業研究会など、県内外に数多く計画されています。研究文献など、権威ある情報も、得ようと思えば得られる状況にあります。多忙な日常の中で、それらに対応できるのは極く限られたものになることは当然ですが、可能な範囲でかわりを持ちたいものです。そして柔軟に学びとり、本質を確かめながら、自分たちの研究に幅と深みを増していくように努めたいものだと思えます。

校庭で遊ぶ子どもの声に呼応してか、八幡の森でカッコウがよく鳴いています。今年はカッコウの声が例年になく多いように思います。初夏のさわやかさをより鮮やかにしてくれています。

私たちの教育会も力強く踏み出しました。不易流行を旗印に、みずみずしく、さわやかな活動を展開していきたいものです。そして、ほんとうに子どもを生かす教育を模索していく中で、お互いの協力を深め、お互いの力量を高めていくよう努めていきたいものです。

(森上小)

- 教育会だより
- 4 第一回代議員会
  - 7 理事長選挙・第三回選挙管理委員会
  - 8 第二回代議員会
  - 13 副理事長・常任委員・監事・信教常任委員・信教代議員の選挙・第五回選挙管理委員会
  - 14 第一回常任委員会
  - 18 研究委員会並びに同好会世話係会
  - 22 講演会 中心講師・三枝孝弘先生(埼玉大学教授) 演題「自己形成ということ」
  - 26 教研三団体結成会 於 教育会館
  - 27 第一回研究委員会世話係委員長会
  - 28 第二回代議員会
  - 5 於教育会館・新任者会員24名
  - 10 同好会(A・B)発足会 於 須坂小学校
  - 28 上高井教育会定期総会・講演会 於 須坂市公民館
  - 62 年度事業計画並びに予算の承認
  - 63 年度事業計画並びに予算の承認
  - 会員意見発表
  - 「初めての中学生」 渡辺宣裕教諭(東中)
  - 「新卒の頃の思い出」 渡辺康子教諭(日野小)
  - 講演会「学校教育改善の課題」一個を生かす教育を中心に 茨城大学教授 高久清吉先生
  - 第三回常任委員会
  - 第四回代議員会
  - 第十二回上高井教育懇談会 於 教育会館

## 郷土の文化財 ⑧3

### 天照二所皇大神宮の大幟

高山村 藤平



高井鴻山が七十五歳の時に揮毫したと言われている。大幟は二つで対になっており、その一つの大きさは、長さ九・二メートル、幅は〇・七六メートルである。秋祭りの十月十三日午後二時頃に藤平の真ん中の三叉路に立て、次の日の十四日の夕方には降ろしている。

(神林)

# 今年度の研究の方向

## — 教室実践と研究課題、講師の

### — 指導の脈絡を重視して —

研究委員長 竹前 稀 市

どの学校の、どの教室の子どもたちも「学習への意欲」「学習の仕方についての能力」「自己を教育しつづける意志」を育てることを願って設定された全体テーマ「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」をもとめ、この研究も三年目をむかえた。

今年、そのまよりの年にあたる。今年の研究課題は、研究の経過から言うところの二点である。(1) 二次の研究をまとめ、仮説を立て、実践研究を通して深める。

(2) 一般化できる方向で深化、拡充をはかり、現場の教育実践を高めていく。と言うことである。この研究の推進は、実は、私たち一人ひとりの授業の中にあることを思うと、まず自らの授業をみつめ、それと本年度の研究課題との対応をきびしく問いつづけ、実践を高めていくことがなによりも重要なことである。そして、その指針を三枝先生の全体指導のご講演にもとめたい。

今年のご講演で基本的内容にかかわるべきの四点がよくご示唆いただいた内容のように思われる。

(1) 内なるエネルギーを自らきりひらいていくことが自己形成ということである。

(2) 一つの可能性が開花して、つぎの可能性を追究していくこと、この連続がねばり強く

より、テーマに迫る話し合いを深めることである。たゞ留意しなければならぬことは、すじや概念の追究でなく、一人ひとりの子どもが本心に動き、育っている授業の追究である。また、よく授業の中で、子どもたちの声が小さく語尾がはつきりしないとか、私語が多いとか、発言は活発だが人の意見に耳を傾けないとか、指名されても「はい」の返事ができないとか様々な問題も指摘される。

これらの問題についても脈絡をもった指導仮説の中で地道な実践をつみかさねて、人間性を高めていくことでテーマへ迫っていくのだと思うのである。

子どもたちの学びの姿で語りあい、手がたい日常の実践の中で生まれる会員の力を結集して、テーマに迫る委員会活動の推進を期待するものである。(相森中)

# 同好会へのいざない

同好会長 大森 健 嗣

教育会会員の70%の先生方が入会して、本年度も十三の同好会が発足した。

昨年度の反省会で「内容の充実した会であり、大変勉強になった。同好会会員だけではもったいない。会員以外の方も多く聞かれた。」という声も多く聞かれた。

各同好会がそれぞれの伝統を引き継ぎながら、さらに充実発展することを願って、左

哲学 「饗宴」の読み合わせ  
夏季講演会 講師・京大・西谷裕作先生  
音楽 合唱指導研究会・講師  
前上越太・伊藤 温先生、  
打楽器・指揮法・リコーダー  
・作曲・編曲等の講習会  
文学 遠藤周作作品集の読み  
合わせ・講師・安良岡康作  
先生

書道 講師・北島 茂先生・定期・特別練習会・夏季講習会 作品展 書き初め会  
体育 水泳・運動会ダンス・陸上競技の実技と指導法・器械運動・スキー実技講習  
美術 陶芸研修(形成・焼成) 作品展  
作品展 作品研究・夏季絵画講習会・講師・福井敬一先生、版画技法講習会、雪景色写生会  
俳文学 春季・夏季・秋季・冬季兼題による作品研究、同好会誌「高矣」の発行  
教育心理 各種諸検査・心理テスト実施・実施上の留意点、整理と考察、一人ひとりを生かす指導法のあり方  
算数・数学 「数学思想」の読み合わせ、夏季講演会・講師・信大・松林 大先生  
理科 野鳥・植物観察研究会  
五味池付近総合調査・または、原子力発電所見学・水生昆虫・岩石講習会、オリオン・アキタ工場見学  
技術・家庭 コンピューター  
研修 明治製菓工場見学・竹ざい・手打ちそば講習会  
会・食事マナー講習会  
地歴 「須坂の職人たち」調査・臨地学習「須坂の土蔵造り屋」講師・県文・青木 広安先生・夏季巡検・場所未定・講師・市川健夫先生  
「豊丘ダム」見学、近世文書講習会・講師・県史刊行会・古川貞雄先生・会員研究発表会  
カウンセリング テキストの読み合わせと事例研究・県カウンセリング会長・松本文男先生の講習会(旭ヶ丘小)

## 特殊研究者・県外視察者決まる

信教・特殊研究者  
氏名 栗ガ丘小  
研究 テーマ  
人数の多い高学年中心の中度精神の特殊学級において、児童が一杯とり組める生活単元  
米子不動信仰と修験(2)  
行者の生活

西澤 佳代 栗ガ丘小  
研究 テーマ  
須坂市における商業地の変化  
— 商店街の変化と人口のドーナツ化 —  
4ビットマイコンによる模型制御  
— 情報基礎 — 領域の題材開発

浦井 二天 日滝小  
研究 テーマ  
須坂市における商業地の変化  
— 商店街の変化と人口のドーナツ化 —  
4ビットマイコンによる模型制御  
— 情報基礎 — 領域の題材開発

牛山 通高 常盤中  
研究 テーマ  
須坂市における商業地の変化  
— 商店街の変化と人口のドーナツ化 —  
4ビットマイコンによる模型制御  
— 情報基礎 — 領域の題材開発

平林 博常 盤中  
研究 テーマ  
須坂市における商業地の変化  
— 商店街の変化と人口のドーナツ化 —  
4ビットマイコンによる模型制御  
— 情報基礎 — 領域の題材開発

泉外視察者  
氏名 栗ガ丘小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

山岸 信之 栗ガ丘小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

返町 輝雄 栗ガ丘小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

浦沢 恵理 高山小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

藤沢 洋子 須坂小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

池上 小 小山小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

岸田 幸弘 小山小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

依田 周一 森上小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

滝沢 忠男 日滝小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法

近藤 功 日滝小  
研究 テーマ  
社会科教材研究  
国語科教育(表現)  
低学年体育における表現運動の指導法



# 教育会総会に参加して

小林 登志子

今年の四月から上高井にお世話になることになり、こちらの教育会総会に初めて参加しました。土曜日の午後でしたが、大勢の先生方の熱心な姿が心に残りました。

三年間勉強させていただいた諏訪でも、総会の開会に先立って合唱発表がありました。子どもたちと悪戦苦闘してきた体に、すーっと浸み入る歌声は心をなごませてくれ、気分も新たにその後のお話を聞くことができたように思います。

なかでも高久清吉先生の講演と会員の先生の意見発表はこの二ヵ月程の自分を反省させられるものでした。

音楽と家庭科の専科から初めてこの学級担任となり、一年生を相手に目先の事に追われ



がちな毎日、以前の生活とは大分違う感じがします。eileenな学校生活を送っている子はどのくらいいるだろうか。一日が終わって子どもの姿を思い浮かべた時、今日一日、どれだけ一人ひとりの子どもとかわかることができただろうか。「○○さんはどうしてこんなことが……」と思った瞬間に、す

## 歌う喜びはどこに

— 研究委員会と私 —

川上 重房

私どもの音楽研究委員会は山崎昌校長先生の、哲学的深みのある初めのことばで開会され、北原先生の間味溢れ

たさわやかな司会で進行されます。さて、この委員会でも話題になり、且つテーマともなっていることは「最近の子どもは歌わなくなってきた」と「どうしたら、生き生きとした表情で歌うようになるだろうか」ということです。

過去、何年か小学校の学担として、自分のクラスだけでは或る程度立派に歌ってきたと自信を持ってきた私にとって、ここ三年ほど専科として受け持った学級の中に、歌には縁遠い学級があり、前述の自信

で他の子と比較しているんじゃないだろうか。あるいは、自分の方が高い所について、子どもの音階も教師の音階に合わせようとしているのではないのか。自分の言葉のかけ方や話し方はどうだったのか。本当に子どもたちを見ているのだろうか。

意見発表をされたお二人の先生の実践されている姿に、高久先生のお話と重なるものを感じ、自分の今後に生かしているところ、思いを新たにしています。言葉は足りませんが、総会に参加して感じたことです。(日滝小)

が一挙に崩れてしまいました。「どうして歌わないの。」と質問をすると「高い声が出ない。」「音程に自信がない。」「笑われそうだ。」等々の声。そこで今、受け持っている二年から六年までの子どもたちには、

- ① 出しやすい音域で
- ② 斉唱が正確にできること
- ③ 音楽活動全般で、失敗しても笑わない楽しい時間と心がけて指導をはじめました。

それに付けても、教科書を丁寧に扱うことの大切さ、巷に溢れている騒音とともに叫び声的な歌声等、何とかならないものかと痛感する毎日です。(高山小)

## 同好会と私

土屋 雄治

私と同好会の出会いは遡ること今から十年前になる。新卒でこの須坂の地にお世話になり、そこで先輩の先生に勧められ、地歴同好会に仲間入りさせて頂いた。専攻が社会

科だったので、気軽な気持ちで入ったのだが、二月の同好会で拙い卒業論文を発表することになり、大変困ったことを今でも覚えている。地歴同好会では、山城の实地踏査や古文書の読み合わせ、夏季の巡検に参加させて頂いた。山城の实地踏査では、新任地の須坂の地が歴史的によりくわかり、興味をもつことが

できた。古文書の演習では、以前に目にふれることはたくさんあったが、いざ自分で読もうとしてもなかなか読めず、そこに歴史家の苦勞と偉大さを感じることができた。

また、地歴同好会ばかりでなく理科同好会へも、時々便乗参加させて頂いた。中でも五味池の植物観察と、きのこ採集が印象深い。初めて訪れた五味池は、蓮ヶつじが満開で、牧場の牛が行き交う風光明景なところであった。そこには、観光で訪れた人々に注目されず、名前さえはつきりしない植物がたくさん存在

## 学校づくり ⑱

栗ガ丘小学校



学校の玄関の石段から、美しいのびゆく子ども像をはさんで、くりの木のタイ

ル歩道が続く。雁田山にのぼる朝日をあびて登校する子どもたちの姿は、そのタイムル歩道と調和して、明るく生き生きと感ぜられる。

本校の学校目標は、「たくましいからだ」と「やさしい心」をもち自ら伸びゆく子どもである。それをうけて、「おもいやりの心をもって、小布施町に生きる子ども」の育成を願って、道徳教育(文部省指定・二年次で発表)を中心に研究をすすめている。心の貧困がさげばれている現在、豊かな心を養うことが大切と考えたからである。同和教育など、本年度の重点研究の分野に五つをあげている。

また、地域に根ざした教育を、さまざまな学習場面で展開している。小布施町にゆかりの深い北斎太鼓・小林一茶の句碑を子どもたちがたてたり、生活に結びつけたものが

それである。ほかに、子どものしし舞い、高井鴻山の妖怪展など、地域素材が豊富である。小布施町は、りんごづくり、鴻山・北斎で知られ、校歌にうたわれているように、未来をひらくかぎは、子どもたちの掌の中にある。そんな願いをかなえるためには、子どもたちをうるおいのある環境におくことが大切である。地域の人びとや町のお力によってくりの木のタイムル歩道や体育館の出入口を三つにしていたのだ。のぞましい学校づくりの具現化は、和をもって勉強や仕事に、いそしんでいる感性ゆたかな子どもたちのなかにもとめたい。(羽生田敏)

# 火鉢



## 思惟のくずかご

—おしつことと自由—

小林 勉

その日の私は、私の神聖なる精神にへばりついた肉体の呪縛から逃れるために、いつものように、いつもの場所で、自由への解放を試みていました。

そこへいきなり三年生の木下君が飛び込んできました。木下君は、私の背後で一瞬ためらい、私の横に並びました。その時、彼の発した言葉を聞いた私は、今、まさに自由へと逃走しつつあったおしつことが、感動のあまり、出口の所でうち震えるのを感じたのでした。

彼は言ったのです。  
「月・火・水・木・あつ、今日はここだな。」  
なんとということ、なんという大胆さ。彼は、あの切迫した状況の中にあってもなお、思考し、決断し、実行したのでした。教師である私が、ただ出しているだけという姿であった。その横で……  
教師失格。いつもの解放感とははやく、重い敗北感だけが、あたかも残尿感のように、私を包んでいました。

この四月から、高甫小学校にお世話になりました。初めての転任の経験で、何もかも初任校のやり方が当り前に思っていたのが、「なるほど、こういうやり方もあるのか。」と、違った考え方や見方が出来る気持ちの上での新鮮さが心地よい毎日です。

南信で、理科の専科と高学年の担任の四年間を過ごし、今年が初めての一年生と出会うことができました。一年生はこうだろうな、ああだろうなと楽しみや不安を抱いての入学式。その日から二ヶ月、三十五名の子どもたちとの毎日は、一日一日が単純なこと

ついで先日、学校に最新型の印刷機が配置された。原稿をセットして一枚目が出てくるまで三〇秒とかわらない。

新卒で赴任した学校には印刷機と言え、開校以来の手刷りの謄写板しかなかった。粗忽者の自分は、よく鉄筆でろう原紙を破いたり印刷の度に手や衣服を汚した。先輩の先生が片手で実に巧みに刷り上げるのに感心したりした。

二校目の学校は松本の大きな中学校であったので、さすがに輪転機が何台もあった。年に何度かは原紙を輪転機に反対に貼ってしまうという失敗をした。針の先から火花を

の繰り返しの様でいて、短い二ヶ月でも、子ども達の集団の中にはいろんな変化が起きていたことがわかります。

「小さくて、まだ、まだ、赤ちゃんみたいだなあ。」と思ったり「へえ、一年生でも、なかなかやるじゃん。」と、そのたび、私の中に子どもたちがいろんな顔をしながらせまってきた。初め、ほとんど口をきかなかったT子が、多く

飛ばして製版する「ファックス」もあったが、原紙が高価だということと自由に使用せではもえなかった。

三校目の学校にいる時、乾式複写機いわゆる電子コピー機が導入された。経費が高いこの機械だけは事務室にありひんぱんに利用するのはなんと

## 給食のときの雑談

清水 真弓

の子と交わりながら大きな声で笑ったり、授業中に手をあげてくれたりすると、心からうれしくなります。また、なんでもきちんとしてくれる子に思えた子が、友だちづき合いが

できず、今でもひとり遊びでいるのに気づいたり。

入学当初の緊張から、大人しいのわからず、手がかからない、なんていい子たちだろうと思っていたのが、今で

ちにガリ板を駆逐していった。ワイプロなるものが普及してきたばかりの頃で、これを研究物の印刷に使って良いとか悪いとか実にはかばかしい議論をしたりした。「ちゃんとした印刷はやはりガリ板。ガリ板印刷には心がある。」などと言う人もいて、ガリ板はもうしばらく生き残るかと思っていた。

だが一年前、自分にとって五校目の本校に転任してみると、すでに本校ではガリ板印刷などまったく使われていなかった。

出入りの文具屋さんとかんな思い出話をするうち、昔も話したら「ぜひ、ゆずってほしい。」と頼まれてしまった。もはやガリ板は、販売店にとても貴重品であるという。

（常盤中）

（信教）渡辺宣裕（東中）  
（係）神林・望月

## 印刷機今昔

平林 博

## 編集後記

（高甫小）